

第 学年 特別支援学級（Aグループ） 算数科学習指導案

1 単元 「くだものワールドであそぼう」

2 指導観

- 本グループの児童は、(A・E児)、(F・G児)、(H児)、(B・C児)、(D児)の8名で構成されている。これまでに生活の中で大小比較や多少比較をしたり、身近な物の数を数えたりして、数に親しんできている。算数科学習の学び方では、個に応じた学習内容による個別課題を基に学習しているが、知識・理解や技能等の実態は多様である。各児童の実態は以下の通りである。

	知識・理解	意欲・態度
A児	色や物（食べ物・動物など）の弁別はできる。色に関しては、何色と答えることはできない。物を一つずつ指でおさえながら5まで数えることができる。数字を読んだり、書いたりすることはできていない。	いろいろなことに興味をもち、意欲的に取り組むことができる。一つの課題に集中する時間は短く、教師の支援が必要である。
B児	3までの個数は直感的に数えることができる。5までの数の具体物を数えたり、数字を読んだり書いたりすることができる。また、対象物と1対1対応させて数字を書きながら数えることができる。	簡単なルールに基づいて活動することができる。いろいろなことに興味をもち、意欲的に取り組むことができる。注意がそれやすく、集中する時間が短い。また、難しい課題になると離席することもある。
C児	5までの数の具体物を数えたり、数字を読んだり書いたりすることができる。10までの数になると重複や飛び抜かしなどありあいまいになりやすい。	やや複雑なルールの中でも活動することができる。興味がある物には、集中して取り組むことができる。気分によって意欲が変わることがある。
D児	5までの数の具体物を数えたり、数字を読んだり書いたりすることができる。10までの数になると重複や飛び抜かしなどありあいまいになりやすい。	やや複雑なルールの中でも活動することができる。興味がある課題には、集中して取り組むことができる。
E児	10までの具体物をものと数詞とを1対1対応させながら確実に数えることができる。20までの数を、数字を見ながら読んだり書いたりすることができる。	課題に意欲的に取り組むことができるが、教師の指示や声かけが必要なときもある。
F児	100までの数字の読み書きができ、数の大小がわかる。10のまとまりを作って、「10が3こで30」ととらえることを理解し始めた。	興味がある課題には意欲的に取り組むが、苦手な課題にはなかなか取り組もうとしない。
G児	20までの数字の読み書きができ、数の大小がわかる。10のまとまりを作って、「10と5で15」と言い表す姿が見られ始めた。	どの課題にも集中して意欲的に最後まで取り組むことができる。
H児	100までの数字の読み書きができ、数の大小がわかる。10のまとまりを作って、「10と5で15」と言い表す姿が見られ始めた。	注意がそれやすく、その都度、指示や声かけが必要である。課題への取り組み方が理解できると、自分から意欲的に取り組むことができる。

- 本単元は、楽しみながら「くだものワールド」のいろいろなくだものを同じ種類に分類したり、その個数を数えたり、半具体物（タイル図）や数字と対応させたりするなど具体的な操作活動を通して、個別に設定された基礎的な数概念を身に付けることを主なねらいとしている。

本単元では、①数対象が児童にとって身近で好きな素材であり、着目しやすく、楽しんで具体的な操作活動に繰り返し取り組むことができること、②くだもの数を調整することで、個に応じた数範囲で学習内容を設定することができる。

具体的には、児童の実態に応じた数範囲で、①種類で仲間分けを行うこと、②くだものを重なり漏れのないように1対1対応させて数えるための計数箱を用いて、半具体物や数字と対応させること、③10以上の数のくだものを数えるときには、10のまとまりを使った数え方をして、「10といくつ分」に分ける位取り箱を用いて、半具体物や数字と対応させること、④10のまとまりの考え方を使って数えることである。このように個に応じた内容に基づき、具体物などを「見くらべる」、「分ける」、集合数を「取り出す」、数詞や数字などと「合わせる」、「比べる」「まとめる」などの具体的な操作活動に繰り返し取り組み、確実さを高め、多様な場面で用いることができるようにする中で、集合数の理解や簡単な加減法の理解へとつないでいきたい。このように基礎的な数の概念を身に付けていくことは、将来の社会自立へ向けて大変意義深い内容である。

- 本単元の指導にあたっては、まず実際のくだものを用いた操作活動を設定し、児童が興味をもち楽しく課題に取り組めるようにする。また、児童の実態に応じて教材・教具を工夫し、それらを使ってマッチングをしたり、仲間分けしたり、数量化したりする操作活動に楽しく取り組んでいけるようにする。

そのために、導入段階では、「くだものワールド」で扱う実際のくだものを見たり触れたりして、今後、操作活動の対象となるものに興味・関心をもてるようにする。

展開の段階では、半具体物を使って操作活動をし、「くだものワールド」を体験をする。そして、具体物→半具体物→数字へとつないでいく。特に身に付けさせたいことは、繰り返し操作活動に取り組んでいくようにする。また、一人一人の実態に応じた活動の場を設定し、小さい数から次第に数範囲を大きくしていく。さらに、数を10のまとまりを使って考えるなど色々な数のとらえ方へと広げていく。操作活動をした後は、できたことや分かったことを、学習ノートに書くことで学習した内容を整理していく。

まとめる段階では、一人一人が学習ノートを発表することで学習をふり返るとともに、友達と取り組んだことを互いに賞賛し合い、活動の満足感や充実感が味わえるようにする。

3 単元目標

- 「くだものワールド」で操作活動に楽しく取り組むことができる。
- くだもの具体物や半具体物を使った活動を通して、マッチング、仲間分け、数量化をすることができる。
 - (A・B児)・・・指示された5までの数を正しく操作することができる。
 - (C・D児)・・・指示された10までの数を正しく操作し、いろいろなものを種類ごとに分けたり数えたりすることができる。
 - (E児)・・・20までの数を、10のまとまりを作って、数えることができる。「10といくつ」で〇〇と数を表すことができる。
 - (F・G・H児)・・・10のまとまりに気づき、10のまとまりを使って、30までの数を数えることができる。また、「10が〇こ、1が〇こ」でいくつになるかを表すことができる。

4 指導計画（全8時間）

(1) 「くだものワールド」を場面ごとに遊んで、数の操作活動をする。

7時間

時	学習内容と問題／主な算数的活動と手立て			
	A・B児（5まで）	C・D児（10まで）	E児（20まで）	F・G・H児（30まで）
1	○実際のくだものを使って、種類ごとに仲間分けをする。 (数種類)	○実際のくだものを使って、種類ごとに仲間分けをする。 (数種類)	○実際のくだものを使って、種類ごとに仲間分けをする。 (仲間分けできないものも含んで、数種類)	○実際のくだものを使って、種類ごとに仲間分けをする。 (仲間分けできないものも含んで、数種類)
2	○仲間分けした物を1対1対応で、計数箱に入れて数える。 ○指示された数の半具体物を取る。	○仲間分けした物を1対1対応で、計数箱に入れて数える。 ○指示された数の半具体物を取る。	○仲間分けした物を1対1対応で数える。 ○指示された数の半具体物を取る。	○仲間分けした物を正確に数える。 ○指示された数の半具体物を取る。
3・4	○数字を見て、数をよむ。 ○いくつかの半具体物のまとまりを見て、半具体物の数と数字を合わせる。	○数字を見て、数をよむ。 ○いくつかの半具体物のまとまりを見て、半具体物の数と数字を合わせる。	○数字を見て、数をよむ。 ○タイル図を見て、タイルの数と数字を合わせる。	○数字を見て、数をよむ。 ○タイル図を見て、タイルの数と数字を合わせる。
5 本時 ・6	○数種類のくだものを種類ごとに仲間分けする。 ○1対1対応で数え、数字カードを置く。 ○数字で表す。	○数種類のくだものを種類ごとに仲間分けする。 ○1対1対応で数え、数字カードを置く。 ○数字で表す。	○問題文を読んで、指示された数だけ半具体物を取る。 ○タイル図に表す。 ○自分でくだもの・数を決め、半具体物を取る。 ○ワークシートに、10といくつを使って数える。 ○数字で表す。	○問題文を読んで、指示された数だけ半具体物を取る。 ○タイル図に表す。 ○自分でくだもの・数を決め、半具体物を取る。 ○ワークシートに、10のまとまりを使って数える。 ○数字で表す。
7	○お皿の上にある数字と半具体物に対応す	○お皿の上にある数字と半具体物に対応す	○お皿の上にある数字と半具体物に対応す	○お皿の上にある数字と半具体物に対応す

| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

(2) 「くだものワールド」のまとめをする。 ————— 1時間

第 5 時 「習 得 型」学 習

5 本時目標

- 「くだものワールド」の中で，操作活動に楽しく取り組むことができる。
 - くだもの具体物や半具体物を使った活動を通して，マッチング，仲間分け，数量化をすることができる。
- (A・B児)・・・絵に描かれた手順表を見て，5までの数を，くだもの半具体物を使って仲間分けしたり，マッチングをしたり，1対1対応で数え数字に表すことができる。
- (C・D児)・・・絵に描かれた手順表を見て，10までの数を，くだもの半具体物を使って仲間分けしたり，マッチングをしたり，1対1対応しながら数え，数字に表すことができる。
- (E児)・・・20までの数を，くだもの半具体物を使って，10のまとまりを作って数えることができる。また，「10といくつ」で表すができる。
- (F・G・H児)・・・30までの数を，くだもの半具体物を使って，数えることができる。また，10のまとまりを作って，「10が○こ，1が○こ」で数を表すことができる。

6 本時指導の考え方

前時までに児童は，くだもの半具体物を使って仲間分けをしたり，マッチングをしたり，1対1対応で計数箱を使って数え，数字で表したり，児童の実態に応じた数範囲で半具体物の操作やタイルで表すことによって数量化をしたりしてきている。そこで本時では，くだもの半具体物を使って仲間分けをしたり，マッチングをしたり，1対1対応で数えて数字で表したり，10のまとまりを使って大きな数を操作したりする活動を通して，基礎的な数の概念を身につけることを主なねらいとしている。

「つかむ」過程では，本時学習の意欲と見通しと課題意識をもたせるために，前時までに使った手順表を提示して，操作活動を思い出させる。また，一人一人の数範囲や操作の仕方について確認し，活動に見通しをもたせる。児童が楽しんで取り組める場の設定として，りんごやみかん，ぶどうなどがなっているくだもの木を準備し，実際にくだもの木からりんごやみかん，ぶどうの半具体物を取る活動を仕組む。

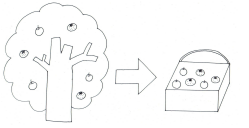
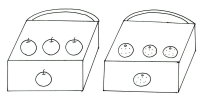
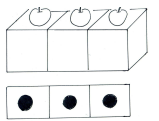


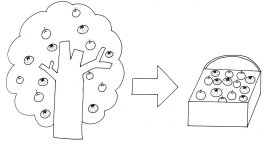
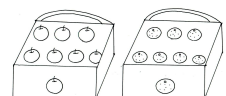





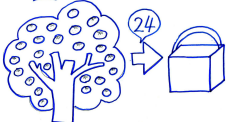
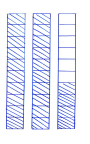
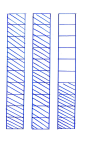
「つくりだす」過程では，絵図を見たり問題文を読んで，具体的な操作活動に取り組んでいく。そのために，グループ毎にくだもの木，りんごやみかん，ぶどうの模型や写真などの半具体物，くだものをのせるお皿，数字カードやタイル図，個に応じた学習ノートを準備する。

「響き合う」・「まとめる」過程では，グループ内で自分ができたことを確認したり，発表したりする。また，数の操作に取り組んだ達成感や満足感を味わわせたいため，記入した学習ノートを発表させて，本時で学習した活動を確認する。

7 準備

教師：手順表，くだもの木，りんご・みかん・ぶどうの模型や写真などの半具体物，個別の学習ノート，数字カード，タイル図，
児童：前時までに作った学習ノート

8 展開

過程	学 習 活 動 と 内 容				活動を促す支援
つ か む ／	1. 本時の学習内容を知る。 2. めあてをつかむ。 めあて _____ くだものがりにいって、じぶんがとったくだもののかずを かぞえよう。 3. 活動の見通しをもつ。 4. 各自の数範囲で具体的な操作活動をしなが、取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の意欲を高め、見通しをもたせる。 ○ 数の大きさや操作を確認する手順図を提示する。 ○ 個の活動を促す支援 <A・B・C・D児>
つ く り 出 す ／ 響 き 合 う ／ ま と め る	<p>A児（3まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木になっているくだものを全てかごに入れる。  ○集めたくだものを種類ごとに分ける。  ○計数箱に並べて、1対1対応で数える。  ○数図カードをあわせる。  ○数字カードで表す。  	<p>B児（5まで） C・D児（7まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木になっているくだものを全てかごに入れる。  ○集めたくだものを種類ごとに分ける。  ○計数箱に並べて、1対1対応で数える。  ○タイル図で表す。  ○数字で表す。 	<p>E児（20まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題文を読んで、数字の数だけ、数えながらかごに入れる。 りんごがりにいきました。 ぼくは、15ことりました。  ○計数箱に並べて、数える。  ○タイル図で表す。  ○自分が好きなくだものがりをする。 ○10といくつを使って数える。 ○数字に表し、学習したことをまとめる。 	<p>F・G・H児（30まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題文を読んで、数字の数だけ、数えながらかごに入れる。 みかんがりにいきました。 ぼくは、24ことりました。  ○計数箱に並べて、数える。  ○タイル図で表す。  ○自分が好きなくだものがりをする。 ○10のまとまりを使って数える。 ○数字に表し、学習したことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数を数える時に、重なりや飛びぬかしがないように助言等を行う。 <E児> ○ 10のまとまりといくつあるかを数える方法とその数の表し方の助言等を行う。 <F・G・H児> ○ 10のまとまりを作ったの数え方、数の表し方の助言等を行う。
	5. 学習ノートを発表しあう。 6. おわりのあいさつをする。				<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のがんばったところ、よかったところを認め、次時への意欲をもたせる。